



contents

- 平成22年 年頭のご挨拶P.1
- 総合内科から—禁煙外来のご案内—P.2
- 診療科の紹介「歯科口腔外科」.....P.3
- 医療連携室からP.4
- 編集後記P.4

謹賀新年 2010

平成22年 年頭のご挨拶



病院医療相談部
部長
木下 光雄

新年明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましては、よき新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、当部署ではケースワークの仕事を含め、地域の医療機関の皆さまへは病診あるいは病々連携などを通じて種々の医療サービスを提供させていただいております。また、がん拠点病院として新たな体制でがんに関するご相談にも対応させていただいております。この他にも、一昨年から病院ボランティアの支援活動も行っています。当部署に寄せられる案件も年々増加しており、様々な相談に対して誠心誠意の心がけて対応させていただいておりますが、まだまだ不十分であると認識しております。昨年は若干名ですが新人スタッフが配属され、医療相談部職員一同、気持ちを新たにしているところです。

当院ではバージョンアップされた内容での病院機能評価を今年受審することになっています。当病院医療相談部もこの機能評価に合うレベルの高い対応ができるよう、鋭意努力していく所存でございますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

昨年来のインフルエンザは収束することなく流行っています。予防接種もさることながら、十分な睡眠と栄養摂取を心がけるなど体調管理に勝るものはないように思います。皆さま方のご健勝とご発展を祈念しております。



総合内科から—禁煙外来のご案内—



総合内科 科長
浮村 聡

喫煙は百害あって一利なし。

喫煙習慣はニコチン依存症という疾患です。

健康保険を利用した禁煙外来を開始します。

土曜日に完全予約制で行います。

過去の喫煙歴、ニコチン依存症の判断など保険適用には一定の条件が必要です。

禁煙治療にかかる費用は、約3ヵ月で12,000～17,000円程度です。

喫煙は動脈硬化、癌などの悪性疾患、慢性の肺疾患など多くの疾患の重要な危険因子で百害あって一利なしといわれています。そのため多くの患者さまが禁煙を試みられますが禁煙の成功率は高いものではありません。禁煙が成功しないのは患者さまの意志が弱いだけでなく、ニコチンのもつ強い依存性が原因です。このような喫煙習慣は「ニコチン依存症」といわれ、治療が必要な疾患ですので、意志の力だけで治せるものではありません。大阪医科大学附属病院では敷地内禁煙を実施し、健康保険による禁煙外来開設の基準を満たすことができたため、今回平成22年1月から禁煙外来を開始することとなりました。

健康保険を使って禁煙治療を受けるにはこれまでの喫煙歴(1日の喫煙本数×喫煙年数=200以上)やニコチン依存症があるかどうかといった一定の条件を満たすことが必要です。具体的な条件等は当院の総合案内までお問い合わせください。条件を満たした方について第1、3、5土曜日の午前中に完全予約制にて禁煙外来を開始することとなっています。担当医は総合内科、呼吸器内科、循環器内科、耳鼻咽喉科の医師が交代で担当いたします。また禁煙外来担当の看護師、薬剤師も一緒になって禁煙外来に最も必要な患者指導を協力して行う予定となっています。こうしたチーム医療による十分な患者指導により禁煙の成功率が高まるとされています。

治療においては薬局で購入できるニコチンパッチ剤よりも高用量のニコチンパッチ剤の使用が可能です。また新たな治療法として登場したニコチン切れ症状を軽くするだけでなく、タバコをおいしいと感じにくくする効果を併せもつ薬剤を用いることもできます。健康保険等を使った禁煙治療では、12週間で5回の診察を受けます。毎回の診察では、禁煙補助薬の処方を受けるほか、息に含まれる一酸化炭素(タバコに含まれる有害物質)の濃度を測定、禁煙状況に応じた医師のアドバイスを受けることとなります。健康保険等を使った禁煙治療にかかる費用(自己負担分3割として)は、処方される薬にもよりますが約3ヵ月で12,000～17,000円程度です。これは、1週間あたりで換算すると約1,000～1,400円となり、毎日20本タバコを吸う方なら、約3～5日分のタバコ代に相当します。すなわちタバコ代よりも治療費のほうが安いといえます。治療に成功すればその後のタバコ代は不要となるわけです。

これまで禁煙を試みたことのない患者さま、過去に禁煙に挑戦し失敗した患者さまへのご案内をお願い申し上げます。

禁煙外来の条件

- 1 外来診療の方
- 2 「禁煙治療のための標準手順書」に記載されているスクリーニングテスト(TDS)で、ニコチン依存症と診断された方
- 3 1日の喫煙本数×喫煙年数=200以上の方
- 4 直ちに禁煙することを希望し、「禁煙治療のための標準手順書」に則った禁煙治療(12週間にわたり計5回の禁煙治療を行うプログラム)についての説明を受け、この治療を受けることを文書により同意している方
- 5 禁煙治療を中断された方が再度保険診療による禁煙治療を受けようとする場合は、ニコチン依存管理料の初回算定日より起算して1年を超えた日からでなければなりません。



診療科の紹介 ● 歯科口腔外科



歯科口腔外科 科長
島原 政司

「歯無し」で何でも食べたい! 健康になりたい! 健康を保ちたい!
どだい無理な「話」(歯無し)です。
成人病は食生活に偏りがある人に多いといわれています。
これらの事実は口腔領域の環境が全身に及ぼすことを意味しています。
口腔ケアは全身の健康管理のうえからも極めて重要です。

口腔は体の一部であるという考えで診療にあたっています。口腔腫瘍、口腔外傷、顎変形症、嚢胞性疾患、顎関節症、歯性感染症、全身管理を必要とする歯牙疾患の処置、睡眠時呼吸障害の歯科的治療、インプラント治療などすべての顎口腔領域の疾患の治療を行っています。これらのいずれの治療に際しても、口腔ケアを行い口腔環境を良好にすることが重要です。

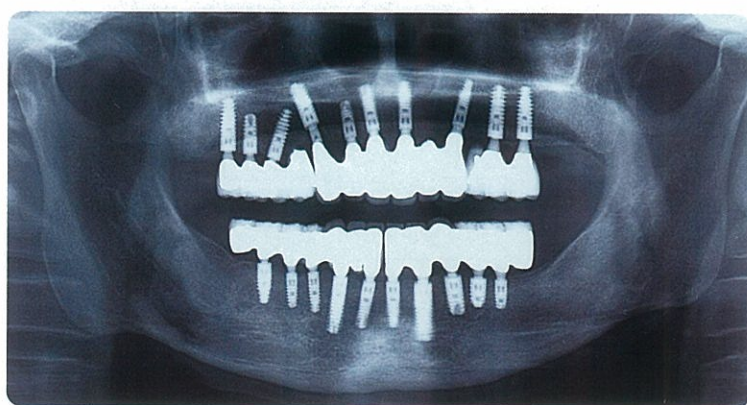
インプラント(人工歯根)治療について

口腔癌をはじめ口腔領域の疾患では、その治療後に多くの症例で咀嚼機能障害が生じます。咀嚼機能回復には義歯のみでの回復では困難な症例が多く、このような症例では義歯、インプラントならびに磁気はいずれかを組み合わせ、目的を達成しています。インプラントの材料は改良に改良が加えられ、顎骨を含め歯周組織に非常に親和性が優れたものとなっています。現在のインプラントは自然の歯に近い状態になっています。その結果自然の歯と同様に口腔ケアが必要となっています。放置すると歯周病と同じ状態が生じ、脱落しやすくなります。予後は口腔ケアの状態によって左右されます。

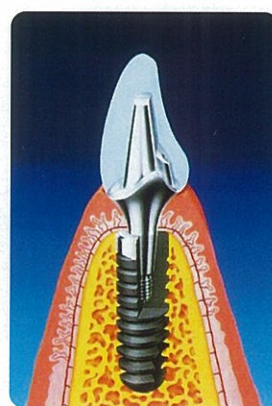
口腔ケア

最近ではう蝕、歯周病の影響が口腔内の状態にとどまらず、全身に及ぶことが徐々に明らかになってきています。歯周ポケット内やう蝕内に生息する細菌や細菌の出す内毒素、酵素、また炎症による生理活性物質が血管やリンパ管を通り全身の循環系に作用し、動脈硬化や心臓疾患系、さらに脳梗塞にまで関連し、妊娠時には早産あるいは低体重児出産にまで影響を及ぼすことが示されています。歯周病のような慢性疾患が存在すると、炎症性物質であるTNF α が多量に分泌され、このTNF α がインスリンの働きを抑制するため、血糖コントロールが悪化して、高血糖状態になります。これらの事実は口腔ケアの重要性を示唆しています。

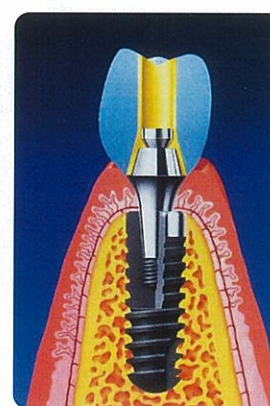
近年、ビスフォスフォネート系薬剤による難治性顎骨壊死との関係が問題となっています。正確な原因は不明ですが、臨床的経験から判断して、口腔環境が何らかの影響を及ぼしていることは間違いないようです。従ってビスフォスフォネート薬剤を投与する場合は、口腔環境が良好であることが必須の条件です。顎骨壊死が生じると処置に難渋します。現在では確実な治療法はありません。従って顎骨壊死が生じないように予防が必要です。



インプラントのパノラマ写真



前歯のインプラント



臼歯部のインプラント



ビスフォスフォネート系薬剤による顎骨壊死

医療連携室から

●平成21年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告

去る平成21年11月19日、連携病院より82名、院内より39名の先生方にお集まりいただき、ホテルグランヴィア大阪にて開催いたしました。

前半は大阪医科大学 竹中 洋学長より、「大学改革の方向性」と題して講演を行いました。ご出席いただいた先生方には、今後の本院の方向性も含めて、十分ご理解いただける良い機会となりました。その後、病院長より役員会からの報告、副院長からは「平成22年度本学研修医の現状について」、「病院医療相談部の現状について」の報告をさせていただきました。

懇親会も大勢の先生方にご出席いただき、盛況のうちに会を終了することができました。



昨年来、新型インフルエンザの猛威に皆様の医療機関でも大変な思いをされているのではないのでしょうか。

当院も昨年は、5月の最初の騒ぎの中心（高槻市・茨木市付近）ということで、ずっとインフルエンザを気にしながら過ぎていったような気がします。

刻々と変わる情報を、院内専用のホームページや紙面による回覧で周知するように努め、その時々に合わせて勉強会なども催してきました。

一方、学内では医学部学生の学年閉鎖を余儀なくされたり、毎年恒例の「病院健康フェア」や「院内コンサート」といったイベント等も中止になり、地域の方々には大変残念な結果となりました。

医療連携室でも2人、3人と休みが重なったことがあり、普段以上に忙しい状況となりました。受付確認票のお返事が遅れたり、電話を取るのが遅かったりと、皆様にご迷惑をおかけしたことがあったかもしれません。

まだまだ流行の季節は続きます。予防の基本は何よりも「うがいと手洗い」と「マスク着用」ということです。日々の生活にも注意を払い、この季節を乗り切りたいと思います。



昨年12月、病院職員の協力により、初めて病院玄関前がイルミネーションで彩られました。



編集後記

日本の政治に大変換が起こり、鳩山連立内閣が正式に発足して4カ月が経過しました。まだまだ評価を下すには早く、過去の政権の悪癖を踏襲することなく、より良い国づくりを目指す舵取りをしてくれるものと、大いに期待したいものです。さて今年は寅(干支の意なら「寅」、動物の意なら「虎」を充てます)年ですが、お馴染みの「寅」・「虎」・「トラ」(Tiger)で思い出す代表格が阪神タイガース、タイガーウッズ、タイガーマスク、寅さん等々ではないでしょうか。そして虎には多くの有名な諺があります。病院医療相談部としてはその中から一つ「虎を描きて狗(いぬ)に類す」を選んで今年の目標に掲げたいと思います。決して「張り子の虎」にはならないように。本年は4月に「平成22年度診療報酬改定」が控えており、この号が発刊される頃には「引き上げ」か「引き下げ」か決定していると思われます。どちらにしても、医療機関としては「医療の質の向上」・「安全の確保」に邁進すべきです。本年も今まで以上に特定機能病院・大学病院として地域医療に貢献できるよう努力を重ねる所存です。 (T.S)